

そだちのねっこ

～乳幼児期の遊びより～



「水、とんだね～！」
～偶然が遊びにつながる瞬間～



教育センター所報
9月号掲載

8月1日(火)、1歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

コップからコップに水を移し替えたり、泥の感触を全身で味わったり、穴から出てくる水を指で押さえたり離したり、それぞれの遊び方で水遊びを楽しんでいました。まだ文章にして話すことは難しい年齢ですが、表情や「わ!」「いっぱい」「きゃ!」などの言葉からその楽しさを感じていることが伝わってきました。

そんな中、A児が柔らかいチューブの入れ物に水を入れて持ち上げた瞬間に、ぴよ～!と噴水のように水が出ました。偶然の出来事に「わあ～!」とびっくりしながらも嬉しそうな表情を見せ、保育者と目を合わせている場面がありました。保育者は「わあ～!」と同じ言葉を発すると同時に、「天井についたね～」「上から水落ちてくるね～」「冷たいな～」など、子どもの体験したこと、感じたことを言葉で伝えて共感していました。すると、A児も「ついたね～」、隣に居たB児は「冷たいな～」と保育者の言葉を真似する姿がありました。



A児が何度も繰り返し遊んでいると、周りにいた子どもたちも入れ物に水を入れて押したら、飛び出してくることを知り、お互いの顔を見て笑い合うことで、その楽しさを共有していました。

子どもの『もう一回!』という気持ちが起こることは、「遊びに対する興味・関心、意欲」とのつながりが深く、そこに至るまでには、そばで温かく見守り、一緒に驚き、笑ってくれる保育者の存在や安心して遊べる環境があつてこそだと思います。

子どもたちの満面の笑みは、見ているこちらまで笑顔にさせてしまう、『魔法の笑顔』です。この笑顔を求めていたのだと実感する瞬間でもありました。

「こんなことできるんだよ!」「みてみて!」という子どもたちの心の発信や姿を私たち大人(保育者)は見逃さずに寄り添い、『心から楽しんでいる笑顔=魔法の笑顔』につなげていくことも、1歳児の育ちのねっこであると再確認しました。

